

ピースボート災害ボランティアセンター (PBV)

2014年度 活動報告

2014.4.1 - 2015.3.31



—未曾有の災害となった東日本大震災から4年。

石巻では、市街地と湊地区をつなぐ内海橋の架け替え工事が始まり、津波により被害を受けた旧北上川では、堤防工事が始まりました。仮設住宅から復興公営住宅への転居も徐々に行われています。

女川町では、町全体を未来の津波から守るためのかさ上げ工事が進行し、石巻と女川を結ぶ列車がようやく開通しました。新たな駅舎の完成は、女川町で暮らす人々にとって、新たな一歩となりました。

目に見える“復興”が大きな槌音を立てて進められる一方、人口流出、過疎化、少子高齢化、中心市街の空洞化といった地方都市ならではの課題は、今も山積しています。

—毎年のように発生する災害。

特に地方都市で発生する災害における復旧作業は、担い手の不足が大きな課題となっています。このような場合、被災地域内だけで災害対応をしようとするのではなく、役に立ちたいと考える外部からのボランティアの力を活用するという視点が必要となるでしょう。協働するためのヒントは、きっと東日本大震災などの災害を経験し

た方たちの中にあるはずです。彼らの体験に耳を傾け、もはや対岸の火事ではなくなった災害への備えをはじめていく必要があります。

—東日本大震災の教訓を世界と共有する。

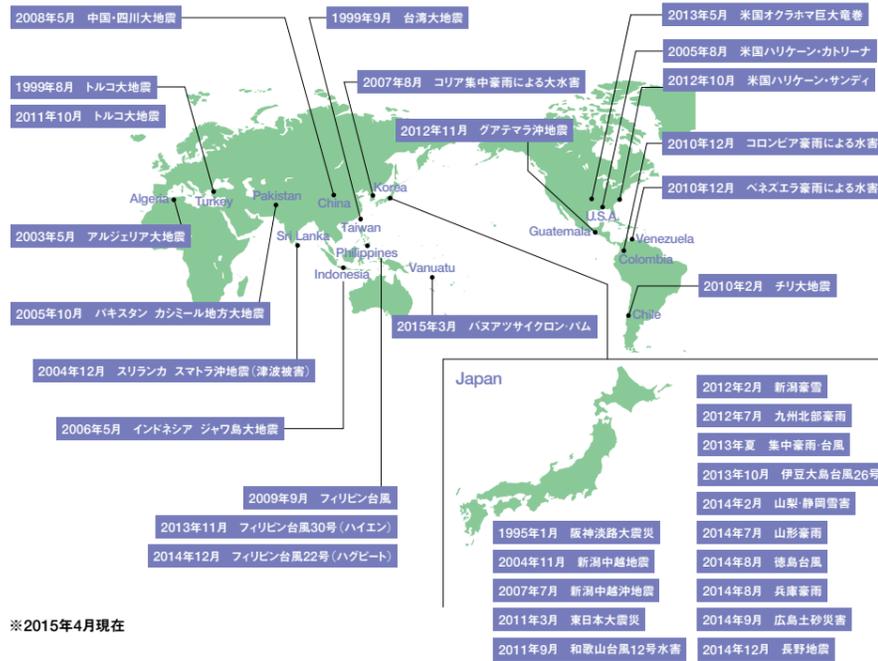
3月に宮城県仙台市で開催された「第3回国連防災世界会議」や各種付帯イベントでは、災害大国であり防災大国でもある日本の知見を世界に広く発信する機会となりました。四方を海に囲まれたハワイでは、津波被害から沿岸部を守るための様々な検討が行われ、東日本大震災以降の東北地方の取り組みに大きな関心が寄せられました。東北の経験を世界に共有できたことは、災害救援活動を行ってきた私たちにとって、一つの成果だと思っています。

この一年の私たちの活動を振り返ると、そこにはやはり“人”が中心にありました。一筋縄にはいかない、特效薬のない課題に対して、解決のために共に取り組みたいと考えてくださる方々がいる限り、私たちの活動はこれからも続いていきます。

皆様からのご支援、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

ピースボート災害ボランティアセンター
代表理事 **山本 隆**

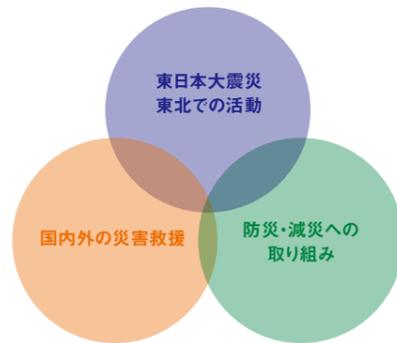
ピースボートの主な災害支援



※2015年4月現在

人こそが人を支援できる
ということ

【PBVの活動】



ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)は、東日本大震災を受けて2011年4月に設立した一般社団法人です。“国境を越えた災害支援は、地域や世界の平和をつくる”という国際交流NGOピースボート(※下記参照)の想いを受け継いで、「東日本大震災 東北での活動」「国内外の災害救援」「防災・減災への取り組み」の3つの分野で活動を行っています。



阪神淡路大震災 (1995年、神戸市長田区)

ピースボートでも約1,000名のボランティアとともに緊急支援を行った。「ボランティア元年」と呼ばれ、その後日本の災害支援活動の原点に。



スマトラ沖地震 (2004年、スリランカ)

M9.1という巨大地震により、複数の国で大津波が発生。スリランカ沿岸部の村へ浄水器やパソコンを届けるなどの支援を行った。



パキスタンカシミール地方大地震 (2005年、パキスタン)

支援の届きづらい冬の山岳部での被害。避難生活は過酷を極めた。防寒具やブルーシートの提供、仮設避難スペースづくりなどの支援を実施。

「ピースボート」とは



ホームページ <http://www.peaceboat.org/>

※ピースボートは、国連経済社会理事会との特別協議資格を持つNGOです。

ピースボートは1983年の設立以来、世界各地を巡る「国際交流の船旅」をコーディネートしてきた非営利の国際NGOです。世界中の人々との出会いを通じて、国と国との利害関係を越えた草の根のつながりをつくることを目指して、これまでに80回以上の航海を行ってきました。2013年までの30年間で、世界200以上の国と地域をめぐる、約65万人以上の方々が参加しています。

第3回国連防災世界会議

東日本大震災の教訓を世界に！ —国連防災世界会議で、日本の104団体が協力—



2015年3月14日～18日、過去最大となる「第3回国連防災世界会議」が仙台で開催され、世界187ヶ国からの代表団6,500人以上が来日、並行して行われた市民向けイベントには延べ15万人以上が参加しました。会議では、2030年までの国際的な防災目標となる「仙台防災枠組」が合意され、気候変動や人災による災害リスクの高まりが共有されるとともに、国や防災関係者だけでなく、産官学民一体となったマルチセクターの役割が明記されました。

PBVも共同事務局を務めた「2015防災世界会議日本CSOネットワーク(JCC2015)」(※p5参照)には、東北の支援に携わった日本の104の団体が参加。東日本大震災の被災地と世界の防災関係者の橋渡しをする市民ネットワークとして、数々の災害を経験した日本の教訓を発信しました。



各国のゲストの前で見事な演奏を披露した石巻市雄勝町の「伊達の黒船太鼓」。4年前の津波で楽器や練習場が流されたが、もう一度メンバーが集まり伝統を受け継いでいる。

JCC2015の主な活動・成果

- ・日本の104団体が集まる市民ネットワーク
- ・会議に向けたUNISDR(国連国際防災戦略事務局)との公式パートナーシップ
- ・関係省庁、仙台市などのホスト国・都市との協議・協力
- ・「仙台防災枠組」への市民側からの提言
- ・本体会議における東北被災者の参加・発言の機会を提供
- ・初の「市民防災世界会議」の企画・運営
- ・福島での原発事故の教訓をまとめた多言語ブックレットの刊行 など



会議全体の責任者であるワレストロム国連事務総長特別代表。JCC2015のフォーラムに駆けつけ、市民へのメッセージを贈ってくれた。



国連本体会議のトークステージでは、PBVが行う世界の防災ユース育成の取り組みを発表。

世界と学ぼう。市民のための防災会議へ！ 市民防災世界会議



仙台市内の各会場では、400以上の市民向けイベント(パブリック・フォーラム)が行われました。JCC2015が企画運営した「市民防災世界会議」には、4日間を通じて、日本・海外から延べ1,500人以上が参加。大きな枠組を議論する国連の本体会議では扱われない地域や市民の具体的な事例に焦点を当てた9つのセッションをコーディネートしました。最終日のメインイベントでは、参加した一人ひとりのメッセージを組み合わせた市民防災世界宣言を発表。「市民防災」という新たな流れが生まれるきっかけになりました。

また、東日本大震災直後の津波や原発被害のニュースは世界中に発信されましたが、残念ながらその後の復興に向けた努力はあまり伝わっていません。JCC2015では、会議に来日した海外ゲストに東北沿岸部や福島の実状を知ってもらうための視察プログラムも実施しました。



ボランティアが運営し、市民が集う場 ピープルズ・パビリオン



会議期間中に日本と海外の市民が自由に集まって交流や意見交換ができる場として、多目的交流テント「ピープルズ・パビリオン」を運営しました。運営にはたくさんのボランティアが協力してくれたこともあり、イベントや道案内はもちろん、Wi-Fiやパソコンが使える事務機能やワークショップスペースの貸し出しなど、5日間で延べ2,500人以上が利用した人気コーナーになりました。



テーマ別セッション

- 1 市民防災世界会議オリエンテーション
- 2 2015年 開発・環境・防災が出来る年
- 3 防災・減災をシフトする。～気候変動と社会の変化～
- 4 世界と日本の語り部に学ぶ「復興」
- 5 日本の災害復興 ① 国内の大規模災害からの復興を振り返る
- 6 日本の災害復興 ② 東北復興・防災まちづくり会議
- 7 コミュニティ・レジリエンス ～東日本および各国の事例から～
- 8 地域力を支えるコーディネーション
- 9 多様性と災害対応 ～障がい者・LGBT・ジェンダー・外国人の視点から～

※各セッションの内容は、それぞれに担当団体が企画しました。その他、国連本体会議参加メンバーによるレポートセッションも実施しました。

メインイベント

- 【来賓挨拶】
マルガレータ・ワレストロム氏(国連事務総長特別代表)
菊地健次郎氏(宮城県多賀城市長)
桜井勝延氏(福島県南相馬市長)
- 【鼎談・シンポジウム】
ポスト兵庫行動枠組とこれからの市民防災
ボランティア元年から20年～地域と人がつくるレジリエンス～
- 【パフォーマンス「東北から世界へ!」】
[石巻市雄勝町]伊達の黒船太鼓(保存会)
[大槌町]白澤鹿子踊(保存会)
[仙台市]合唱・映像・ダンス(アート・インクルージョン)
- 【市民防災世界宣言】
千年後に夢をこめて

市民防災世界会議 主催・協賛・協力一覧 ※団体名は略称表記

- 【主催】外務省NGO研究会、防災からまちづくりを考える実行委員会
- 【協力・後援】アジア防災・災害救援ネットワーク(ADRRN) / 真如苑救援ボランティアSeRV / センダイ自由大学 / 第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会 / 地球市民社会のための防災ネットワーク(GNDR) / ピースウィンズ・ジャパン / ホワイロー委員会
- 【協賛】Act Alliance / UMCOR / CWS Japan / 真如苑 / GFDRR / 千株株式会社 / 創価学会 / 日蓮宗あんのん基金 / 立正佼成会一食平和基金



災害に強い都市の構築 レジリエントシティ・キャンペーン

世界各国の自治体の防災・減災対策を促進しようと、ピースボートクルーズの洋上や寄港地で、アフリカや南米の青年たちを対象とした防災トレーニングや普及イベントを行ないました。UNISDR(国連国際防災戦略事務局)と共同で実施したもので、日本の防災・減災ノウハウを世界に伝えることも目的としています。国連防災世界会議では、今後予定するアジア地域での取り組みを含めたキャンペーンを発表しました。



ふくしまから世界へ 多言語ブックレット『福島 10の教訓』

「(福島)の被害の大変さだけでなく、どんな防災対策が必要かを具体的に教えてほしい」との海外からのリクエストに応え、国連防災世界会議に合わせて、原発事故の教訓を市民目線でまとめたブックレットを発表しました。ブックレットは、JCC2015の活動から生まれた刊行委員会が編集し、日英韓中の4言語に翻訳。世界各国の防災リーダーらに配布しました。

※ブックレットは、その後仏語翻訳版も完成、さらに多言語への翻訳を進めています。



2015防災世界会議日本CSOネットワーク(JCC2015) ※団体名は略称表記

- 【事務局団体】国際協力NGOセンター / CWS Japan / せんだいみやぎNPOセンター / ふくしま地球市民発信所 / ピースボート災害ボランティアセンター
- 【幹事団体】アユース仏教国際協力ネットワーク / いわて連携復興センター / うつくしまNPOネットワーク / オックスファム・ジャパン / カトリック中央協議会カリタスジャパン / 関西NGO協議会 / CSOネットワーク / シャラニール=市民による海外協力の会 / セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン / 男女共同参画と災害・復興ネットワーク / DPI日本会議 / 名古屋NGOセンター / 日本NPOセンター / パルシステム生活協同組合連合会 / 東日本大震災支援全国ネットワーク / ふくしま連携復興センター / ふくしまNPOネットワークセンター / 仏教NGOネットワーク / 社の伝言板ゆるる
- 【参加団体】RQ災害教育センター / IVY / アメリカズ / ありがとうインターナショナル / いわきおとんとSUN企業組合 / インターナショナル・メディカル・コープス / ウィメンズアイ / ウォーター・エイド・ジャパン / 動く→動かす / 宇都宮大学福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト / エフエムわいわい / 環境パートナーシップ会議 / 気候ネットワーク / 北九州サスティナビリティ研究所 / Climate Youth Japan / ケア・インターナショナル・ジャパン / 減災と男女共同参画 研修推進センター / 公益法人協会 / CODE海外災害援助市民センター / 国土防災技術株式会社 / 国際サイエントロジ・ボランティア / 国際公務労連加盟組合日本協議会 / 国際ボランティア学生協会(IVUSA) / 国連生物多様性の10年市民ネットワーク / コンサベーション・インターナショナル・ジャパン / さくらネット / ザ・ピープル / CILたすけっと / 地震補償付き住宅推進協議会 / シャローム / シャンティ国際ボランティア会 / 宗教者災害支援連絡会 / ジョイセフ / 障害分野NGO連絡会(JANNET) / 情報支援プロボノ・プラットフォーム / 少年写真新聞社 / 自立生活サポートセンター・もやい / 震災から命を守る会 / 震災リゲイン / 真如苑救援ボランティアSeRV / 世界宗教者平和会議日本委員会 / 世界女性会議岡山連絡会 / 創価学会青年平和会議 / ダイバーシティ研究所 / 立ち上がるぞ!宮古市田老 / 地域連携プラットフォーム / チャイルド・ファンド・ジャパン / 中南米協働隊 / 勿来まちづくりサポートセンター / 難民支援協会 / 難民を助ける会 / 日蓮宗あんのん基金 / 日比NGOネットワーク(JPN) / 日本障害フォーラム / 日本国際ボランティアセンター / 日本イレ研究所 / 日本YMCA同盟 / 日本イラク医療支援ネットワーク / 日本ハビタット協会 / 日本ユネスコ協会連盟 / 庭野平和財団 / ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン / PHD協会 / BHNテレコム支援協議会 / ヒューマンライツ・ナウ / 福市 / 福島県有機農業ネットワーク / 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター / プラン・ジャパン / ボランティア・インフォ / まちづくりNPOげんき宮城研究所 / みやぎジョネット / みらいサポート石巻 / 最上の元氣研究所-VC(ボランティアセンター)を支援する会-山形 / ユニバーサルデザイン・ステップ / 横浜災害ボランティアバスの会 / 横浜NGO連絡会 / 陸前たがだ八起プロジェクト / 立正佼成会一食平和基金 / ワールド・ビジョン・ジャパン

JCC2015メディア報道一覧(2014年度)

- 【2014年5月】福島)原発の教訓、国連防災会議にどう発信NGO議論(朝日新聞デジタル) / 来年仙台や本県で開催 国連防災会議に理解(福島民報)【7月】防災対策に女性の視点 災害に強い社会(読売新聞)
- 【2015年1月】国連防災会議 宗派を超え「防災と宗教」議論(河北新報) / 市民の教訓発信事業低調 来春、国連防災世界会議(河北新報)【2月】ルボ:市民の防災力、国連防災世界会議の先行イベントが開催(第三文明) / 国連会議で原発を教訓に(朝日新聞GLOBE) / 防災に市民の力 国連会議にあわせて「市民会議」(朝日新聞宮城県版)【2月】福島復興論:対談「国連防災会議と原発災害」(毎日新聞) / 国連防災世界会議:市民向けイベントの検索サイト開設(朝日新聞デジタル) / 仙台シテエフエム「ラジオ3:マイタウンレディオ」 / 市民の防災力発信「世界会議」に100団体(河北新報) / 水と緑の地球環境:市民防災世界会議に100団体(毎日新聞) / 総合面「顔」欄、社会面「東北復興 世界へ発信」(読売新聞) / <国連防災会議>関連事業検索サイト開設(河北新報)【3月】防災意識向上へ 市民社会の果たす役割-上(聖教新聞) / 産業災害のリスク減も(朝日新聞) / 女性リーダー、南三陸で交流へ(河北新報) / <国連防災会議>南三陸で国際アカデミー(河北新報) / 垣淵のソーシャルメディア日記(毎日新聞) / 国際報道2015(NHK-BS1) / 国連防災世界会議 あす開幕(河北新報) / 福島の経験 世界に伝える NGOが世界会議(朝日新聞) / 「より良い復興」議論=閣僚級会合スタート-国連防災会議(時事通信) / 震災体験 市民が発信(河北新報) / 福島の現状 地元から発信(朝日新聞) / 広い会場、どう歩く(毎日新聞) / 風化に立ち向かうには:劇や碑、公園などシンボで提案(朝日新聞) / 東北学院大学発行「震災学vol.6」 / 福島の教訓、4カ国語で 市民団体が冊子(朝日新聞) / 福島放送ニュース 信仰の違い、超え連携を(河北新報) / 共有し、未来へ継承 阪神・インド洋・東日本 3人の語り部訴え(毎日新聞) / 逃げる意識高めて 相馬(河北新報) / 「放射能の教育を」大熊出身・福島大4年生 高橋恵子さん(朝日新聞) / 過酷な避難状況語る 橋葉の介護施設長 高木氏ら講演(福島民報) / 放射線教育の充実を 福大の高橋さん訴え(福島民報) / 「学ぶ」「命を守る」議論 仙台・フォーラム(福島民報) / 「仙台防災枠組」未明の採択 国連会議が開幕(朝日新聞) / 防災対策 障害者と共に:守られる側から転換(朝日新聞) / 原発事故フォーラム 福島県民ら思い伝える(河北新報) / 正確な放射能教育を 大熊町出身福島大学生 英語でスピーチ(毎日新聞) / 「防災と宗教」集い 宗派を超え連携確認(毎日新聞) / FOUR YEARS AFTER: NGOs introduce '10 Lessons from Fukushima' booklet at U.N. disaster conference 03.18(The Asahi Shimbun) / 原発災害リスク盛り込む:国連防災世界会議が開幕 気候変動など国際協力争点に(しんぶん赤旗) / 防災減災 難しい国際協力:先進国と途上国 続く対立(読売新聞) / 東北の教訓 世界へ(読売新聞) / 市民、のべ15万人参加(朝日新聞) / <国連防災会議>団体や個人の役割を再認識(河北新報) / 復興・再生に参加例紹介(河北新報) / ウォッチングみやぎ:特集(東北放送) / 南相馬でスタディーツアー 市長が原発事故直後など語る(福島民報) / 国連防災世界会議最終日 フォーラム、参加者が評価(産経新聞)

※この他、海外メディアやWeb、ミニコミ、会報誌などでたくさんの報道がありました。

生産者と消費者をつなぐ！ 地場産業を再生、活性化する



実施プログラム

- ・募集型ツアー「ほやづくしツアー」の企画
- ・セミナー「売れる商品・選ばれるお店・商店街」の実施 全7回 延べ参加者53人
- ・商品開発プログラムの実施 全6回 延べ参加者41人

震災以降、それまでのような工場設備・生産ラインを確保できない中、事業者が新商品を開発したり、販路を再開することは容易な道のりではありません。そこで、地元の事業者を対象に市場のトレンドや魅力ある商品づくりに関するセミナーを開催。そこから生まれたアイデアを実際の商品にして販売するためのECサイト「のんびるマルシェ de net」を開設。商品に対する感想を消費者が直接寄せられる仕組みを取り入れ、生産者と消費者がダイレクトにコミュニケーションが行えることで、より良い商品



のんびるマルシェ de net
<http://www.nonbiru-m.net>

づくりへとつなげています。

また、宮城を代表する海産物の一つであり鮮度が命の「ほや」の美味しさを多くの人たちに知ってもらおうと、ほやを愛する人たちが集まって「ほやほや学会」を結成。ほやを使った新メニューを開発し、各種イベントで提供するなどの取り組みも行いました。

会いたい人ができる！ 漁村留学 イマ、ココプロジェクト。



宮城を支える産業の一つ、水産業。しかし、その担手の確保は年々厳しくなっています。一方で震災をきっかけに東北に関心を寄せ、何らかの形で関わりたいと考える人もいます。

担手を探している生産者と、関わる方法を探している人。その両者をつなげることができたら！ 漁村部ならではの暮らしの在り方を広められたら！ そんな想いで実施している「イマ、ココプロジェクト」。本プロジェクトへの参加をきっかけに、石巻に移住し漁師を志す若者が現れるなど、新たな展開が生まれました。

参加者数 **761人** 日別延べ総活動人数 **5,894人**

受け入れ先 **13地区39人**※生産者側参加者数

実施期間 2012年11月～継続中

訪れてはじめて感じることもある。 石巻・女川視察交流プログラム



石巻や女川を訪問したいと考えつつも、どこを訪れるとどのような体験ができるのかわからない。そのような声に応えるべく5名以上の団体を対象に「石巻・女川視察交流オーダーメイドプログラム」を提供。訪問日時や目的に応じたプランを提案しました。

これから益々復興工事が加速していく石巻・女川。日々変化する風景は“今”しか見ることはできません。実際に足を運び、この地で何があったのかを学び、日頃の生活に防災の視点を取り入れる。このことこそ、未曾有の災害を経験した多くの方々の願いです。

参加者数 **532人**

受け入れ実績 中学校校外学習、大学スタディツアー、企業研修、新入社員研修 など

仮設住宅に元気と笑顔を届ける！ 仮設きずな新聞



石巻市内にある全ての仮設住宅を対象に、毎月2回発行を続けている「仮設きずな新聞」。紙面作成には、心のケアに取り組む団体や街づくり団体など、それぞれに専門分野を持った様々な主体が参加しています。そして作成された新聞の配達には、共に暮らす地域の一員として、地元の方々も多く参加しており「共助」の意識が芽生えています。また、地元市民の方々を対象にプロのライターによる「文章講座」を開催。自分の想いを文章にして発信するきっかけも提供しました。

発行部数 **71号～87号**
(毎号約6,500部、1号から累計約39万部発行)

配達地域 **石巻市内133団地** など

実施期間 **2011年10月～継続中**

【編集員】石巻仮設住宅自治連合推進会 / 石巻専修大学復興共創研究センター / キャンパス東北 / 震災こころのケア・ネットワークみやぎ / 街づくりまぼろし / 復興大学

～過去から学ぶ～ 神戸訪問学習

石巻市では、2014年度末から仮設住宅から復興公営住宅への移転が加速しています。ついすみかが確保されることで、すべての課題は解決されるのでしょうか？ 今から20年前、大災害を経験した神戸にそのヒントを求めて、「仮設きずな新聞」の編集部や町内会長などが神戸を訪れました。

「神戸まちづくり研究所」のコーディネートのもと、復興公営住宅でコミュニティ形成や心のケア、地域防災などに取り組んでいる方々からお話を伺いました。神戸の先駆事例を学び、より暮らしやすい石巻を創る一翼を担いたいとの想いを強くしました。



海でつながるアジア 自然と歴史を学ぶ旅 福島子どもプロジェクト2015・春

春休みを利用してピースボートクルーズに乗船する、2015年・春の福島子どもプロジェクト「海でつながるアジア～自然と歴史を学ぶ旅」を実施しました。震災から4年が経ち、海外では5度目の開催となった今回のプログラム。当初の保養という役割から徐々に教育という役割へとその重心が移っています。

様々な出会いや経験を通して、子どもたちが生き方を学び、新しい考えや視点を身につけ、無限に広がる自らの可能性に気づく旅。子どもが育つために必要な環境とは何か、改めて問い直されました。

プログラム概要

旅の期間 2015年3月26日～4月3日

参加メンバー 南相馬市内の中学生12名

主なプログラム

【沖縄】美ら海水族館見学

【博多】大刀洗平和記念館見学、福岡大空襲の慰霊碑等訪問

【済州島】「ゴッザワル」の森トレッキング、餅作り体験

【広島】平和記念資料館・原爆ドーム見学、被爆遺構巡り

※当プロジェクトは、「南相馬こどものつばさ」の一環として協力実施しました。



広島土砂災害

東日本大震災に次ぐ規模の支援活動となった広島土砂災害。PBVでは、主に広島市安佐南区内で二つの活動を実施しました。

一つは、「安佐南区災害ボランティアセンター」が被災地区近くに設けた「八木サテライト」のコーディネートでした。日々、地域のために駆けつけるたくさんのボランティアとボランティアの手を必要としている被災者の方々とをスムーズに結びつける。地元の社会福祉協議会の職員や他団体の経験豊富なベテランコーディネーターたちと共に奔走しました。

もう一つは、被災された住民同士が集まって話しながら食事を囲みつつ、自分たちの困りごとを話せる場づくり。「だんだんカフェ」と名付け、季節に応じたメニューを考え、避難所や地域の広場13か所で計59回3,124食を提供。行政からの補償や今後の復旧工事計画など多くの被災者の関心事について情報が行きわたるよう掲示板を手作りするなどの工夫も行いました。また、この活動には、足湯を行う団体や女性向けサポート品を配布するNGOにも加わって頂き、一人ひとりの要望を丁寧に拾い具体的な支援につなげることもできました。



実施期間 2014年8月25日～10月30日
活動場所 広島市安佐南区、安佐北区
活動人数 日別延べ総活動人数405人(26人派遣)
活動内容:
 安佐南区災害ボランティアセンター(災害VC)運営サポート
 ニーズ調査と支援のマッチング
 炊き出し「だんだんカフェ」

※ジャパン・プラットフォームの助成により活動しました。



その他の国内災害救援

2014年度は、7月に発生した山形県南陽市の豪雨災害、8月に発生した徳島県阿南市の台風被害、兵庫県丹波市の豪雨被害、11月に発生した長野県白馬村の地震被害に対して、緊急救援活動を行いました。総活動日数は67日、日別総活動人数は378人でした。今年度の救援活動は、被災地となった地域の社会福祉協議会や全国から集まるNPO/NGOと協働することで、幅広いニーズに対応することができたという特色がありました。

また、当団体の活動を手伝ってくれた被災地のボランティア有志が新たな支援団体を立ち上げ、長く続く復旧・復興期を支える輪が広がりました。



緊急支援募金 フィリピン-台風ハグビート、バヌアツ-サイクロンパム

昨年、死者・行方不明者合わせて7,000名を超える被害をもたらした台風に襲われたフィリピン。復興努力が続く中、2014年12月には再び巨大台風ハグビートが襲来。PBVでは、台風ハイエンでの緊急救援でパートナーを組んだ現地団体PDRRNを通じて送金を行い、ピラン島のブサリ村の漁業支援活動に役立てられました。

また、2015年3月にバヌアツで発生したサイクロンパムの被害を受け、現地にスタッフを派遣。トンゴア島にて支援ニーズ調査を行いました。現地で支援活動にあたった国連機関、NGO等と調整の結果、パートナー団体Act for Peaceを通じて送金を行い、被害を受けた集落の畑に新たな柵を設置する費用などに充てられました。



※バヌアツにおける活動は、ジャパン・プラットフォームの助成により実施しました。

対象やニーズに合わせた研修内容を開発 防災・減災教育プログラム

2011年11月より、本格的な「災害ボランティア・トレーニング」に取り組むようになって2年半。徐々に、企業や団体からの防災研修の依頼が増えるようになりました。社員や職員に向けて、学校の授業で、町会や地域の自主防災組織を対象になど、それぞれのニーズに合った内容を提供できるようにと、プログラムメニューを増やして活動した一年でした。



自分と家族を守る入門編

初級

わが家の災害対応ワークショップ

【テキストを使った参加型研修/90分】

同居家族の構成や一人暮らし、一軒家やアパート・マンション暮らしなど、災害への備えと対応は本来それぞれ異なります。記入式のワークブック(小冊子)を使ったり、グループで話し合ったりしながら、主体的に「わが家」なりの防災を考えることができます。

主な対象

学校(高校生以上)、マンション管理組合、企業・団体の社員・職員 など

東北被災地の現場で考える

一般～専門

石巻・女川視察 オーダーメイドプログラム

【まち歩きや語り部など、内容・視察コースや時間は要相談】

防災・減災の原点は、被災地の現場を歩き、体験者の声に耳を傾けることにあります。時間の経過とともに、大きな津波被害を受けた石巻市や女川町の姿も変わりつつあります。震災当時の様子と復興に向けた努力の足跡を辿ります。

主な対象

東北被災地に初めて足を運ぶグループ、社員・職員・学生の視察研修 など

4つのステップで学ぶ

初級～上級

災害ボランティア・トレーニング

【講習形式・Web検定・実施訓練など】

災害発生後の「共助」や「減災」を担うのが災害ボランティアの活動です。その具体的な活動方法や心構え、安全管理などを学ぶため、レベルやテーマ別に4つ(災害ボランティア入門/災害ボランティア検定/リーダートレーニング/スキルアップ)のカリキュラムで実施しています。

主な対象

一般開催(個人応募)、社会福祉協議会、ボランティア団体 など

スタッフそれぞれの言葉で伝える

一般～専門

イベント・講演・報告会

【パネルディスカッションなど、形式や内容、時間は要相談】

防災意識の普及や東北被災地への風化を予防する目的もあり、講演会やシンポジウムへの登壇依頼、防災イベントの開催なども、できる限りお受けしています。その他、募金やボランティアにご協力いただいた皆様に対して、国内外の災害支援活動の報告会なども実施しています。

災害に強い地域を育てる

中級

支援を活かす地域力ワークショップ

【講座とグループディスカッション/3.5時間】

災害発生後の動きを「ひと・もの・かね・情報」の分野ごとにまとめた冊子を使い、地域防災に最低限必要な知識を学びます。また、石巻市民から聞き取りした東日本大震災当時の体験談から、予め決められたルールだけではなく被災地の現実を想像する力を磨きます。

主な対象

自治体職員、町会・自治会、消防団・自主防災組織 など



防災・減災教育プログラム実施実績

全国29都市で開催した「災害ボランティア入門」をはじめ、国内ネットワークを活かして「わが家の災害対応ワークショップ」や「支援を活かす地域力」などの新プログラムも積極的に開催しました。

プログラム名	受講者数	実施回数
災害ボランティア入門	1371	76
災害ボランティア検定	102	(Web検定)
リーダートレーニング	218	14
スキルアップ	96	3
わが家の災害対応ワークショップ	1257	31
支援を活かす地域力ワークショップ	245	7
石巻・女川視察受け入れ	532	13
講演・イベント	4907	53

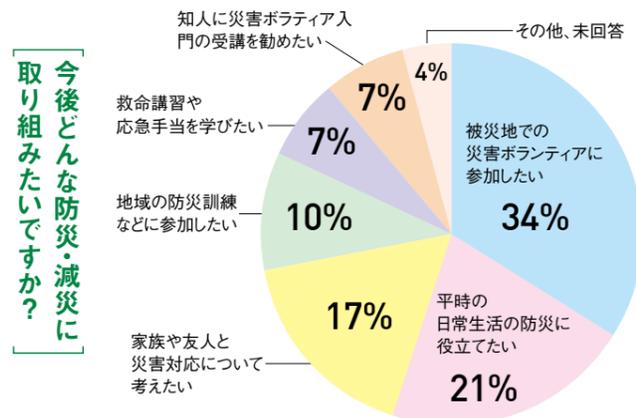
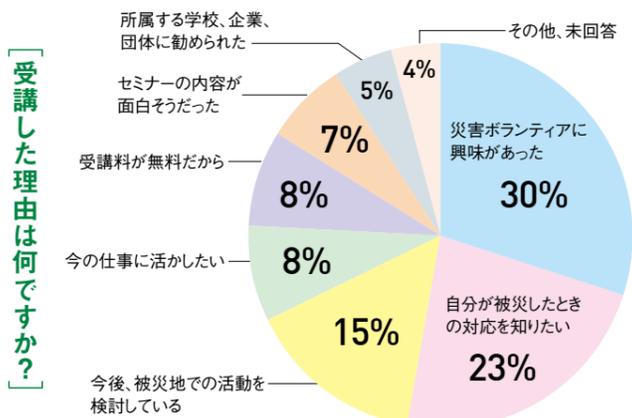
(2014年度)



「災害ボランティア入門」受講者アンケートより

災害時のボランティアの担い手育成を目的とする「災害ボランティア入門」を、さらに全国に広がりを持つプログラムにしようと、受講後のアンケートを実施してきました。受講者の内訳は約半数がボランティア未経験者、残りの半数はボランティア経験者ですが、自分の活動した時期や地域が違うため全体像を理解したいと思って参加してくれていました。

また、様々なニュースで「防災・減災が重要」というメッセージは受け取っていても、「自分にできることは何か」という具体的な内容までは伝わっていないということもアンケートから分かってきました。今後の普及方法やカリキュラムの改善に向けて、「私たちが何をやりたいか」だけでなく「当事者の意見」をきちんと反映させていきたいと思っております。



学びを実践へ

トレーニング受講者が、災害支援の現場で活躍！

大人数のボランティアを必要とした山形県南陽市での水害には「災害ボランティア・トレーニング」受講者からも多くがボランティアに参加しました。また、多くの地元住民がボランティアに参加していた兵庫県丹波市、徳島県阿南市、

徳島県安佐南区などでは、被災地域の災害ボランティアセンターの運営サポートが活動の中心。地元力をきちんと活かすため、リーダートレーニング受講者らが率先して現場入り、裏方としての役割を担ってくれました。



2014年度財務諸表

単位:円

貸借対照表		正味財産増減計算書	
[資産の部]		経常収益 合計	108,445,572
現金預金	49,077,936	寄付金収入	15,562,608
商品	44,165	助成金収入	72,339,100
立替金	130,934	自己負担金収入	4,651,532
仮払金	650,000	サポート会費収入	1,500,000
前払費用	20,301	その他収入	14,392,332
未収入金	24,137,581		
流動資産合計	74,060,917	経常費用 合計	135,344,294
資産合計	75,464,294	事業費 計	120,650,155
		被災地支援事業費	45,154,629
[負債の部]		被災地支援サポート事業費	13,404,956
未払金	6,195,431	ボランティア育成事業費	31,738,626
前受金	14,045,179	その他事業費	30,351,944
預り金	594,137	管理費 計	14,694,139
未払法人税等	70,000		
流動負債合計	20,904,747	当期経常増減額	△26,898,722
		法人税	70,000
正味財産合計	54,559,547	正味財産増減額	△25,633,725
		正味財産期首残高	80,193,272
		正味財産期末残高	54,559,547

メディアでの紹介

【テレビ】仙台放送 / 放送大学
 【新聞】朝日新聞×4回 / 石巻まほろ×4回 / 石巻日子ども新聞×2回 / ウォール・ストリート・ジャーナル / 河北新報×7回 / 神奈川新聞 / 神戸新聞×2回 / 時事通信 / 東京新聞 / 福島民報 / 毎日新聞×4回 / 読売新聞×5回 / La Nation (マダガスカル) / Moov (マダガスカル) / Orange (マダガスカル) / The Japan News / Tresor Public (マダガスカル)
 【雑誌・書籍】新東亜 (韓国) / 東洋経済ONLINE / のんびる / BILATERAL INSIGHT / 震災学vol.6
 【ラジオ】NHKラジオ / NHKラジオ仙台放送 / 仙台シティエフエム / TOKYO FM / 南相馬ひばりFM×2回 / ラジオ石巻×6回 / ラジオ関西

ご協力いただいた企業・団体一覧 (団体名は略称表記)

物資提供やご寄附、イベントへのご協力など、個人の方々からもたくさんのご協力をいただきました。個人情報の観点から、お名前のご紹介は控えさせていただきますがお一人おひとりの皆様へ心より感謝を申し上げます。

支援活動へのご協力

アスノキボウ / イー・コミュニケーションズ / 「イシノマキにいた時間」制作委員会 / 浦和学院高校 / エスボールみやぎ / 大阪ボランティア協会 / 大島社会福祉協議会 / オンザロード / 柏崎市社会福祉協議会 / 瓦礫を活かす森の長城プロジェクト / キャンパー / 協立塗料 / gooddo / くりらじ / 減災と男女共同参画 研修推進センター / 国際協力NGOセンター / 小島の森ゴルフパーク / コモンビート / サノフィ / サービスタグ / 済和 / ジェンシー企画 / ジャパングレイス / ジャパンギビング / ジャパンプラットフォーム / 新宿区社会福祉協議会 / 真如苑 / 信頼資本財団 / 心理支援ネットワーク心PLUS / 聖マリア学院中学校 / セカンドリーグ埼玉 / せんだいみやぎNPOセンター / 創童社 / ソウルフラワー・震災基金 / ソフトバンクモバイル / 第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会 / テサテブ / 東京海上日動火災保険株式会社 / 東京都災害ボランティアセンター / 東北大学 / 東北福祉大学 / トップツアーズ / 難民支援協会 / 日本アイ・ビー・エム / 日本家政学会 / 日本ケアフィット共済機構 / 日本財団 / 日本ボランティアコーディネーター協会 / バルシステム連合会 / バルシク / 被災地NGO協働センター / 人と防災未来センター / ビースウィズ・ジャパン / 福岡被災地前進支援 / ふくしま地球市民発信所 / 富士市災害ボランティア連絡会 / 復興大学 / 復興庁 / ベストラーチ / 防災からまちづくりを考える実行委員会 / ボランティアインフォ / 武蔵野大学 / みやぎ連携復興センター / 社の伝言板ゆるる / モンベル / ラッシュ・ジャパン / リンベル / レスキュー・ストックヤード / ワタノハスマイル / Asian Disaster Reduction and Response Network / CWS Asia-Pacific, Japan / earth garden / ETIC / Huairou Commission / JASMEQ / JEN / LUSH Fresh Handmade Cosmetics / National Disaster Preparedness Training Center / Party 4 Peace / Peace Boat US / Project Sunshine for Japan / R3ADY Asia-Pacific / Share Happiness倶楽部 / TOMODACHI Initiative / UNISDR / U.S.-Japan Council / Yahoo!JAPAN / Yahoo!ボランティア / University of Hawaii / University of Tokyo / Youth for 3.11 / WMA JAPAN / World Cares Center

活動地域へのご協力

アトピア商店街振興組合 / 秋田屋 / 安佐南区社会福祉協議会 / 渥美工業株式会社 / 阿南市社会福祉協議会 / 荒川七衛商店 / いしのみきNPOセンター / 石巻仮設住宅自治連合推進会 / 石巻観光協会 / 石巻観光ボランティア協会 / 石巻こどもセンター / 石巻市教育委員会 / 石巻市社会福祉協議会 / 石巻市包括ケアセンター / 石巻市立病院 / 開成仮診療所 / 石巻市役所 / 石巻ZENKAI商店街 / 石巻専修大学 / 石巻立町復興ふれあい商店街 / 石巻ニューゼ / 石巻NOTE / 石巻日新聞社 / 石巻復興支援ネットワーク / 石巻まちなか復興マルシェ / 石ノ森萬画館 / いわて連携復興センター / 海と共につながる会 / ap bank / 大島町社会福祉協議会 / 雄勝硯生産販売協同組合 / おしかリンク / お茶っこケア / 女川魚市場買受協同組合 / 女川町観光協会 / 女川町商工会 / 河北新報社 / かめ七呉服店 / キッズメディア・ステーション / 木の屋石巻水産 / キャンパス東北 / ことば町商店街 / 子どものまちいしのみき実行委員会 / こどもお感ばにー / こはく〜石巻フューチャーセンター / コバルト観光 / コミサひろしま / コンバウトンティいしのみき街なか創生協議会 / サルコヤ楽器 / 三陸河北新報社 / 松竹 / 震災こころのケア・ネットワークみやぎ / 水産の町[女川]復活プロジェクト / Sweet Treat 311 / 滝川 / 丹波市社会福祉協議会 / ティル・セ・おながわ / 遠山不動産 / 徳島県社会福祉協議会 / 南陽市社会福祉協議会 / 白馬村社会福祉協議会 / はまのね / ひろしまNPOセンター / 復興まちづくり女川合同会社 / プロショップまるか / 巻.com / 街づくりまんぼう / まんがる堂 / 南相馬こどものつばさ / みやぎ生協文化会館アトピア / 宮城ダイビングサービス High bridge / みらいサポート石巻 / 民権めぐろ / 結日丸 / 八幡家 / ヤフー石巻復興支援ベース / 夢番地広島オフィス / 横浜国立大学 / ラジオ石巻 / Act for Peace / Cape Town Disaster Risk Management Centre / ISHINOMAKI2.0 / Israaid / Iverca / OORONG-SHA / PDRRN / Sweet Treat 311 / TEDIC / UNOCHA / Vanuatu Association of NGOs / Vanuatu Christian Council / Wash & Fold

加盟団体・ネットワーク

いしのみきNPOセンター / 国際協力NGOセンター / 震災がつなぐ全国ネットワーク / 新宿・災害復興支援プラットフォーム / ジャパン・フォー・サステナビリティ / ジャパンプラットフォーム / 全国災害NPOセンター / 東京ボランティア・市民活動センター / 2015防災世界会議日本CSOネットワーク / 日本NPOセンター / 東日本大震災支援全国ネットワーク / 民間防災および被災地支援ネットワーク / Global Network of Civil Society Organisations for Disaster Reduction (GNDR)

「サポート会員」になって、PBVの運営を支えてください。

東北での活動、国内外の災害救援、防災・減災への取り組みなど、財政面でのプロジェクト継続とPBVの運営を支える「サポート会員」に、ご協力のほどよろしく申し上げます。

【年会費】

【個人】一口 **5,000円** 【団体】一口 **100,000円**

※二口以上のご協力も可能です。

【会員特典】

- 会報誌「START」(季刊)と年次報告書をお送りします。
- 各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- 会員同士の集いの場に、ご参加いただけます。

【ご協力方法】

「PBVサポート会員 申込書」をご提出、またはお電話にてご連絡いただいた上、下記まで年会費をご入金ください。



季刊誌「START」は3ヶ月に一度発行

郵便振替

郵便振替口座：00120-9-488841 (※下6桁は右ツメ)
口座名：(社)ピースボート災害ボランティアセンター

クレジットカード

VISA、MasterCardを通じた送金は、下記ホームページから
<http://pbv.or.jp/support-member/nyukin.html>

ゆうちょ銀行

ゼロイチキューウ店(019店)当座 0488841
社)ピースボート災害ボランティアセンター

その他 取引先銀行

三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

その他の募金方法に関しては、右記ホームページをご覧ください。 <http://pbv.or.jp/donate.html>

2014年度 活動報告書

発行：一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

発行日：2015年11月1日

編集：合田茂広、山本隆、奥村早苗

デザイン：森大樹

写真：Kazushi Kataoka, Mitsutoshi Nakamura, Shoichi Suzuki,
Act for Peace, Mickey Noam-Alon, はいチーズ!

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A

TEL: 03-3363-7967 FAX: 03-3362-6073

E-MAIL: kyuen@pbv.or.jp

URL <http://pbv.or.jp/>

助成元一覧

ACT Alliance / AmeriCares / CWS Japan / GFDRR / Give2Asia / LUSH / The Japanese American Association of New York / UMCOR / 石巻市 / 外務省NGO研究会 / ジャパン・プラットフォーム / トヨタ財団 / ラッシュジャパン / みやぎ地域復興支援助成金